

研究課題	生徒のやる気を引き出す授業づくり
副題	～授業のユニバーサルデザインを意識して～
キーワード	ユニバーサルデザイン
学校/団体名	公立金沢市立小将町中学校特学分校
所在地	〒920-0932 石川県金沢市小将町1番15
ホームページ	<a href="http://cms.kanazawa-city.ed.jp">http://cms.kanazawa-city.ed.jp</a>

## 1. 研究の背景

本校は、金沢市の中心部に位置し、兼六園・金沢城に隣接している。石川県内の中学校として、ただ一校の特別支援学級の分校である。昭和51年に設置され、市内外から64名の生徒が通学している。生徒数は年々増加傾向にあり、現在の学級数は11学級で、その内訳は、知的障害特別支援学級が5学級、自閉症・情緒障害特別支援学級が6学級、小規模ではあるが、毎年学級編成を行っている。5教科のうち、国語と数学は習熟度別、英語、理科、社会は学年別で授業を行っている。令和6年度には、金沢市立中央小学校芳齋分校（小学校として、県内唯一の特別支援学級の分校）との一体型校舎になることが予定されている。互いに本校をもつ、小学校と中学校の特別支援学級の分校が「学び」をスタートさせる。学習指導要領の改訂に伴い、令和3年度より新たな教育課程を編成し、より中学校学習指導要領の準ずるもので、「学び」を深めてきた。本校は、金沢市の特別支援教育実践拠点校として、「先進的な実践研究の普及と発信」、「具体的な教材や指導事例の情報発信」、「ICTを活用した実践研究」、「教育プラザと連携した実践的な研修」等を担っている。昨年度より導入されたChromebookを活用し、「金沢市中学校教育研究会 特別支援教育部会」のClassroomを開設、本校の研究実践に関する資料（指導案、授業動画、成果と課題、分校研究通信）を発信することで、市内の特別支援教育の充実を図ろうと考えた。

## 2. 研究の目的

本校では、各学期で生徒に授業アンケートを実施している。授業アンケートでは、「進んで授業に取り組めたか」の肯定的評価が92%で、前向きに取り組む生徒が多い。しかし、前向きに取り組んでいる生徒はいるものの、どの授業でも、全員が主体的に取り組んでいるとは言えない状況である。そのため、本校の研究の重点を「学習課題をつかみ、考えをもたせるための工夫」、「考えを伝え合うための工夫」、「考えを深めるための工夫」の3つに設定した。「学習課題をつかみ、考えをもたせるための工夫」では、課題の提示方法の工夫や興味や関心を喚起させるような活動の導入を行う。「考えを伝え合うための工夫」では、生徒同士、生徒と教師が関わり合える場面の設定や自分の考えをどの生徒ももつことができるように時間を確保、考えをもつヒント等を準備する。「考えを深めるための工夫」では、他者の考えを共有したり、自分と異なる考えを取り入れたりできる場面の設定、生徒に気付かせ、考えさせる発問を吟味する。

また、生徒全員が主体的に参加する授業づくりを行うために、時間や場の構造化、刺激の調整、ルールの明確化など学習環境に配慮する。授業展開の構造化やスモールステップ化により「理解」を促進し、学習内容の定着を図り、ユニバーサルデザインを意識して研究実践を行うこととした。

### 3. 研究の経過

#### 校内研究授業の実施

研修部が研究主題に沿った提案授業を行い、本校版授業モデルを構築し、提案した。研究授業を全職員で行い授業実践を推進した。金沢市教育委員会学校指導課指導主事やアドバイザーから指導と助言を仰ぎ、さらなる研究を推進した。研究授業では、ICTの活用を必修とし、ICTの効果的な活用（GIGA）やユニバーサルデザインの授業づくり（UD）を意識し、授業を実践した。

① 3年英語科研究授業 5/18（水）種別：知的 GIGA \*研修部による提案授業

② 3年理科研究授業 5/19（木）種別：知的 GIGA

#### ★生徒理解研修第1回

③ 数学科研究授業 5/24（火）種別：知的 UD

④ 国語科研究授業 6/7（火）種別：自閉・情緒 GIGA

⑤ 3年美術科研究授業 6/22（水）種別：知的 UD

⑥ 体育科研究授業 6/22（水）種別：知的 UD

⑦ 3年社会科研究授業 6/23（木）種別：知的 GIGA

⑧ 2年英語科研究授業 6/23（木）種別：知的 GIGA

授業アンケート1学期（生徒用） 7/1（金）

セルフチェックアンケート1学期（教師用）7/8（金）

#### ★生徒理解研修第2回

⑨ 数学科研究授業 9/28（火）種別：自閉・情緒 GIGA \*公開研前の事前研

⑩ 体育科研究授業 10/5（水）種別：知的 UD

⑪ 国語科研究授業 10/5（水）種別：知的 GIGA

⑫ 1年英語科研究授業 10/6（木）種別：知的 GIGA

⑬ 3年音楽科研究授業 10/6（木）種別：知的 GIGA

⑭ 2年社会科研究授業 10/12（水）種別：知的 GIGA

授業アンケート2学期（生徒用） 12/1（木）

セルフチェックアンケート2学期（教師用）12/8（木）

#### ★生徒理解研修第3回

金沢市特別支援教育実践拠点校事業 公開研究発表会

\*金沢市中学校教育研究会 特別支援教育部会第3回

① 1年美術科研究授業 11/15（火）種別：自閉・情緒 GIGA

② 国語科研究授業 11/15（火）種別：知的 UD

授業アンケート3学期（生徒用） 3/1（水）

セルフチェックアンケート2学期（教師用）3/8（水）

#### 4. 代表的な実践

金沢市特別支援教育実践拠点校事業 公開研究発表会

##### ① 1年美術科研究授業

学習課題 「伝わりやすい作品に仕上げるには、どのような配色計画を立てるとよいのだろう」

展開①では、学習課題をつかませるための工夫として、作品完成後には校内に展示し、金沢市立中央小学校芳齋分校の小学生に見てもらうことを伝えた。「小学生が楽しく漢字を学ぶように伝わりやすい作品に仕上げよう」と、生徒が主体的に学習課題を意識していた。また、Chromebook（ミライシードのオクリンク）を用いて視覚的に制作手順を提示したことで、生徒が見通しをもって取り組むことができていた。



展開②では、考えを伝え合うための工夫として、Chromebookの2つの機能を活用した。まず、配色計画や下描きの工程では、Chromebookに内蔵されている

Chrome 描画キャンパスというアプリを用いた。生徒が主体的に伝える相手や学習課題を意識し、複数のアイデアスケッチを試作するために有効な手立てだった。そして、制作記録を作成する際にはミライシードのオクリンクを活用した。制作記録を作成したことで、生徒は自身の作品やアイデアに自信をもって発表することができた。



制作途中の伝え合いの活動では、生徒同士がお互いの作品について前向きな感想を伝え合うことができ、その後も主体的に制作活動に取り組む意欲につながっていた。発表に自信が持てない生徒も、教師が代わりに発表することで全員が自分の考えを伝えることができ、級友からの感想に発表したことや自分のアイデアに対して前向きな振り返りを行うことができた。

#### 成果と課題

特学分校に通う生徒の実態として、それぞれが自身の困り感や苦手な事と日々向き合いながら学校生活を送っており、特に苦手だと感じる学習活動に対して消極的な姿勢が見られることも少なくない。美術科の授業においてもその傾向は同様であったため、どのようなアプローチであれば生徒のやる気を引き出せるだろうかと考え、ICT機器の活用に至った。

成果として、ICT機器を活用したことにより生徒が興味・関心を高めて制作に取り組むことができた。Chromebookの2つの機能（ミライシードのオクリンク、chrome描画キャンパス）の活用により、美術の制作活動に元々自信を持っている生徒は、さらにアイデアを掘り下げていくことができた。普段は活動に消極的な生徒も、自分のアイデアや考えに自信を持って発表することができたり、こだわりが強く一つのアイデアに固執しがちな生徒も複数のアイデアを作成することができた。

授業展開での課題は、教師が最初に明確な制作時間を提示しなかったことで、活動途中で生徒の活動を止めて話す場面をつくってしまった。また、聴覚過敏な生徒へ配慮しタイマーを使わなかったことで授業への見通しが持ちにくかったのではないかという反省点もある。実社会に出て

いく生徒達に対し、支援過多になってはいけないという考えもあったが、やはり活動に見通しを持てるよう支援を工夫していく必要があったと振り返る。

今回の研究授業を経て、生徒は ICT 機器を個人の制作に活用できるだけでなく、互いの作品の良いところを見つけ伝え合うツールとして活用できることがわかった。今後も生徒同士をつなぐ学習ツールとして、その活用方法を模索していきたい。一方で、やはり美術では“自分の手でつくる”活動も大切にしていきたいと考えている。生徒が自信を持ち安心して表現活動に取り組んでいけるよう、今後も研鑽を積んでいきたい。

## ②国語科の研究授業

学習課題 「こそあど言葉にはどのような特徴があるのか」

展開①では、学習課題をつかませるための工夫として、修学旅行中の写真や修学旅行先である長野県の特産品を用いることで、生徒の興味関心をひき、楽しみながら自分の考えをもつことができるようにした。修学旅行という身近な経験を身近な言葉で表現しながら、会話の中に自然に使われている「こそあど言葉」に意識し、言語のきまりやその面白さに触れることができた。



展開②では、Jamboard 内にある 4 場面の画像を見て、それぞれの場面の状況に合った「こそあど言葉」を考え、入力させた。その後、考えを伝え合うための工夫として、Jamboard の画面を大型画面に映し出した。ICT を活用したことで、自分や友だちの考えが可視化され、比較したり、共通点や相違点を見つけたりしながら、場面に適した指示語を考えることができた。



## 成果と課題

ICT 機器の活用によって、生徒が興味・関心をもち、楽しく学習に取り組むことができた。

また、友達が考えた内容を画面に残すことで、比較したり、共通点を見付けやすくしたりすることができた。教師があせってしまったことで、生徒の発言の機会を減らし、学びを深めることができなかった。あらゆる反応予測を立て、その場に応じた個別の支援を準備していく必要がある。また、発問は曖昧なものにならないように求める内容を具体的にしていくことが生徒にとってわかりやすく、やる気を引き出すことにつながると感じた。



本時では、身近な経験を身近な言葉で表現しながら、会話の中に自然に使われている「こそあど言葉」に意識し、言語のきまりやその面白さに触れることができた。今後も継続して、自分の考えを言語化し、説明させることで、思考力や表現力の育成に努めたい。

## 5. 研究の成果

### ①研究の重点を意識した授業づくりと授業力向上

ICT、特に一人一台端末 Chromebook の効果的な活用を模索し、授業に導入している。Google スライド、Google フォーム、オクリンクと学習のねらいや学習しやすいグループ形態に合わせてアプリを選択することで、集団の強みを生かした「協働的な学び」や「個別最適な学び」を充実させることができた。



### ②研究通信の活用について

研究授業後に研究通信を発行することで、ユニバーサルデザインを意識した教育方略や指導の工夫、Chromebook の効果的な活用等を共有し、取組の成果や授業改善に努めることができた。また、研究実践資料（授業動画、指導案、成果と課題）を研究通信と合わせて、「金沢市中学校教育研究会 特別支援教育部会」の Classroom で発信し、市内の特別支援教育担当者が視聴し、授業改善の参考にできるようにした。



### ③家庭学習強化週間について

家庭学習強化週間を設け、家庭学習の充実を図ることができた。家庭学習期間をノーメディア週間とし、学習に集中できる環境づくりを呼び掛けることができた。

かていがくしゅうきょうかきょうかん  
**家庭学習強化週間とは？**

期間 6月22日(水)～6月28日(火)

学習時間は **自分で決める** **30分以上**

学習内容は **自分で決める**

生活ファイルに綴じて、提出

チェックカードってどんなもの？

記入項目

学習時間	目標	結果
①学習時間	○ ○ △	
②自己評価	○ ○ △	
③ノーメディア	○	

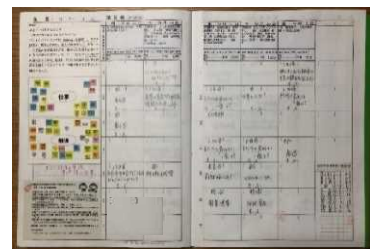
メディアは？  
携帯 PC ゲーム テレビ YouTube 等

かていがくしゅうきょうかきょうかん とりみけっか  
**家庭学習強化週間の取組結果**

学年	最高時間数	学習内容は？
1年生	1時間16分	教科書、ドリル、ワーク
2年生	1時間21分	教科書、ワーク
3年生	2時間41分	教科書、ワーク

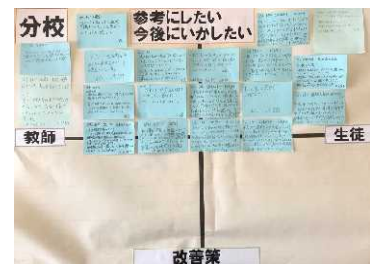
### ④「金沢型学習スタイル」に合わせた授業展開について

「金沢型学習スタイル」及び「ICT 版金沢型学習スタイル」に合わせ、「導入→展開→終末」の流れを意識して、教師一人一人が実践を重ねることができた。また、週案や補助簿に研究の重点に対する各自の授業の振り返りを明記することで、日々の授業改善の意識が高まった。



### ⑤相互授業参観について

年に2回、本分校で相互授業参観期間を設け、他の教員の授業を参観し、教授法や教材について、優れた点を各自が見出し、自分の授業に取り入れていくことで、授業改善に繋げることができた。また、自分の授業について、他の教員からアドバイスを仰ぐことで、授業改善に繋げることができた。





## ⑥生徒理解研修について

生徒理解研修で生徒の特性や授業での取組の実態、授業アンケートをもとにした具体的な支援を検討・共有することで、意欲的に取り組むことができる授業づくりを行うことができた。

## 6. 今後の課題・展望

特別支援教育実践拠点校として、平成26年度から、様々な取組を実践してきた。今年度は、研究の副題に「ユニバーサルデザインの授業づくりを意識して」という文言を加え、「一人も取りこぼさない」よう全員が参加し「分かる」「できる」が実感できる授業づくりを目指し、指導の工夫に努めた。また、各教科でICTの効果的な活用を模索し、昨年度のまずは授業で「使ってみよう」とする段階から、授業のねらいやグループ形態、意見交流から深い学びまでの展開を考えて、「アプリや拡張機能を選択する」段階へと進めることができた。今後も継続して、個別の教育的ニーズに的確に応える指導を提供するために、障害のある生徒及び保護者との相互理解と相互信頼を促進し、教育相談を行いながら、「集団の強みを生かした協働的な学び」や「個別最適な学び」の充実を図りたい。

今年度は、中教研の特別支援教育部会のClassroomを開設し、本校で実践した研究授業の指導案、授業動画、成果と課題、分校研究通信等をアップすることで、拠点校の取組を発信することができた。来年度は、「発信」に留まらず、情報交換等「交流」する中で、市内の特別支援教育に関わる教師の授業力向上や特別支援教育の充実につなげられるよう努めたい。

特別支援教育の充実は、通常学級の授業の充実へとつながる。全員が参加する、全員が「分かる」「できる」を実感する、全員が授業を「楽しむ」、「一人も取りこぼさない」というSDGsの教育目標を特別支援教育の充実から実践していきたい。

## 7. おわりに

研究助成という貴重な機会を頂き、当研究に臨むことができた。また、その中で研究メンバーや金沢市教育委員会学校指導課指導主事、本校のアドバイザー等、多くの方々との関わりの中で、実践を深めていくことができたと感じている。今年度積み上げた実践をさらに発展させながら、特学分校での「学び」を積極的に発信していきたい。

## 8. 参考文献

- [1]桂聖, 国語授業のユニバーサルデザイン 全員が楽しく「わかる・できる」国語授業づくり, 東洋館出版社, 2011.
- [2]授業のユニバーサルデザイン研究会, 教科教育に特別支援教育の視点を取り入れる 授業のユニバーサルデザイン (vol.1) 全員が楽しく「わかる・できる」国語授業づくり 第10刷, 東洋館出版社, 2016.
- [3]授業のユニバーサルデザイン研究会 桂聖 廣瀬由美子, 教科教育に特別支援教育の視点を取り入れる 授業のユニバーサルデザイン (vol.5)「全員活動」の文学の授業づくり, 東洋館出版社, 2012.